

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501417	
法人名	(株) メデカジャパン	
事業所名	南光台ケアセンター そよ風	
所在地	宮城県仙台市泉区南光台南2丁目26番10号	
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 12 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>南光台の住宅地を眼下に天気の良い日には、泉ヶ岳・大和町の七ツ森を眺め散歩を楽しむことができます。月4回以上の地域のボランティアによる音楽体操・ハーモニカ演奏・大正琴の演奏などを行っています。12月には、聖歌隊が来所しクリスマス一色になる等、家族・地域との絆が深まります。我グループホームは、地域との繋がりを大切に、生き生きと楽しみながら生活しています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームそよ風は、南光台町内の高台の住宅街に位置し、恵まれた環境にある。事業所独自の理念は「地域との関わりを大切にする」を第一に掲げ、全職員が共有し、地域密着型サービスの提供と質の高いケアをめざして取り組んでいる。認知症をはじめ介護に関する地域住民からの相談に行政や包括支援センターとの連携で対応したり、運動会やお祭り、お花見等への参加を通して地域との交流を深める中で、例えば防災の避難訓練に対する地域の協力体制が築かれている。また、年に1回家族に対する独自のアンケートを実施し家族の要望や意見に即応(100%の回収率)する取り組みを評価したい。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	平成22年12月21日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 南光台ケアセンターそよ風 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域との関わりを大切にし 温もりの中、個々が自己実現できるように支えます。】の理念が2年継続し取り組んでいます。地域の方々が、ほぼ定期的に来所し音楽体操・談話・大正琴の演奏など行ってくれます。	事業所独自の理念として「地域との関わりを大切にし」を掲げて年に一度の振り返りを行い、理念を掲げる意義を職員全員が理解し実践に活かし取り組んで頂きたい。	地域密着型サービスの意義や規範の観点から、重要事項説明書にも明記し「地域との関わりを大切にし」を盛り込むよう検討して頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員、一家族として地域のイベント(お花見・お祭り・運動会に参加、また地域の方々が気楽に来所している。町内会の仕事としてゴミの集積場の掃除を行なっている。	町内会のゴミ集積所の清掃活動に参加している。地域住民の方に洗濯物の取り込みや庭の花や野菜植え等、自発的に協力して頂いている。また、ハーモニカ、大正琴等のボランティアを受け入れ交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験(3校)の受け入れを行い、子供たちと行えるイベントを企画し認知症の理解を深めていただくと共にお年寄りと楽しみ・笑顔の共有を行っている。体験後も来所してくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催し、施設での取り組みの報告を行い、その後の2ヶ月の取り組みについて相談している。地域と共に行える行事を提案してくれたり運営について指導・意見を話してくれ協力してくれる。	会議は奇数月土曜日に設定開催していて、年に6回のペースは確保されている。地域包括支援センターの職員及び入居者の家族は毎回出席している。テーマは防災や地域の諸行事等多彩で議事録は公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年1回運営推進委員会に出席していただいています。また、地域の相談・施設としての相談をしている。区役所推奨の軽体操の指導を受け実行している。	区役所及び地域包括支援センターとの日常的な情報交換は綿密に行っていてその内容を記録している。尚、認知症家族の会の説明会に講師として出席し、認知症ケアの普及に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	道路に面している為、玄関の施錠を行っている。近所に花を摘みに行ったり、洗濯干しにスタッフと出掛けている。また悪天候以外の日は、町内の散歩に出掛けている。	玄関の施錠については、身体拘束をしない実践についての研修等で拘束につながる事を理解している。徘徊癖のある人への安全面の配慮としているが、施錠することなく対応する工夫をして頂きたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修・社外研修に参加し虐待しないケアについて勉強し、個々のケアカンファレンスを行ない統一したケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を1名お願いしている。入所を問わず、地域の方々から相談された時には、説明を行い司法書士に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みは、来所し気に入った時点で行うようにしている。入所後の不安・疑問に対しては理解・方向性が決まるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望の窓口として管理者が担当、誰もが気兼ねなく投稿出来る意見箱を玄関に設置し、区役所・国保連の相談窓口の連絡の仕方の説明を行っている。意見要望に関しては、検討会を行い出来るだけ沿えるよう	家族会があり、年に1回総会が開かれることから、事業所独自のアンケート(100%の回収率)をお願いし、要望や意見を吸い上げ運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・ケアカンファレンスを各1回以上開催している。日頃から意見を言える環境を作りストレスの無い職員を目指している。また、年1回の面接にて技術の統一を図っている。	日常的にものが言える環境を作っている。ストレスのない職場を目指すことを念頭に個別面接に力を注いでいる。また、重度の方のトイレでの排泄等のケアや職員の労働条件や処遇等についても運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としての知識不足があり全員で知識・技術の向上が出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ない・足並みを揃えないストレスの無いようにスタッフ全員で教えあう姿勢にある。また、必要時管理者が指導する機会を作っている。スキルアップ研修を受け全員で共有できるように内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入会し様々な研修にて知識の向上を行い、他の事業所の方々と交流を行いサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来所相談・訪問(実調・オリエンテーションなど)ゆっくり話を聞く時間を作り、入所後は思いのまま相談・意見が言える環境を事務所に作っている。入所前・入所後問わず気軽に話しに来てくれる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み後・入居可能となったときなど入居前の訪問・相談来所、電話相談など現状の把握に努めると共に信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ニーズに合わせ、利用可能なサービスの検討を行っている。 申し込みの中から緊急に必要な方から入所できるように入居判定会の際には、家族の状況も踏まえ入所決定を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で掃除・調理・洗濯たたみなど一緒に行っている。イベントの飾りつけ・季節の飾りつけなど職員と一緒に作る喜びを味わっている。畑仕事を一緒に行い収穫の楽しみ・調理して一緒に食べて喜びを分かち合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を行い家族が担当できる事はお願いし相談しながら、家族・スタッフ共に支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつ・誰でも来訪できるように環境を整えている。希望があれば、家族と食事・外泊できるように支援している。	入居者の高齢化や重度化が進んでいる今日でも現役時代の会社の後輩の来訪で生き生きした顔に戻る事に着目し、いつ、誰もが気軽に来訪できるよう環境を整え支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベント・レクリエーションなど生活状況から心身の状況を観察しスタッフが中を取り持ちながら入居者が協力できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族の相談・施設として出来る事を情報提供を行い、本人・家族が困らないように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、自宅で愛用していた家具などを設置し自分の部屋として自覚できる環境をつくり、安心できる場所として利用できるようにしている。	日々の関わりの中で本人の状態把握に努めていると共に家族の協力を得る事で本人の状態が安定した例もある。チラシを見て食べ物や洋服を選びに出かけたり、帰宅願望のある方と話し合ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学・入所・実調・入所時ニーズの把握の為、家族・本人・在宅時担当していた介護支援専門員から情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行われる、ミーティング・ケアカンファレンスにて情報交換を行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス・担当者会議にて意見・アイデアの発言場所を確保し実行するためのサービス計画書とし評価の為のカンファレンスを行っている。	事業所独自のアセスメントに家族からの情報を記入し日常の様子を加え、毎月のモニタリングを行い評価している。見直しは3ヶ月毎に、状況の変化時にはその都度家族に説明し確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過表・施設支援経過表・医療情報などにて意識統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住み慣れた環境で、重度化しても馴染みのスタッフと長く暮せる為のサービスを工夫している。デイサービスの特別浴槽での入浴、寝たきりになった場合などエアマットを借りたり、本人・家族の暮らしを守る支援を		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活上感じた内容を家族と相談し、入所しても趣味の時間を作り楽しみのある生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応の受診が原則であるが、スタッフの同行にて生活状況を話し情報を提供している。毎日のバイタルチェック表を持参するようにしている。	往診クリニックをかかりつけ医にし、週1～2回往診がある。緊急時や休日等は協力医療機関(オープン病院)にて対応している。歯科医は毎週土曜に来所し義歯の調整、口腔ケア、嚥下等の指導・助言を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者・計画作成担当が看護師である為、入居者の健康管理の医療的な部分では、いつでも話し合える環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会を行い、主治医・看護師から状況を聞き、家族と情報交換を行い、施設で出来ることを中心に家族の支えになれるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	通院が難しくなった時点で家族と相談し往診に切り替える。主治医・看護師に常に連絡できる体制を取り施設で出来るだけ過せるように支援している。	往診クリニックの指示協力で既にこれまで4例の看取りを経験している。本人・家族の希望もあり、これまでの経験を基に職員教育に力を注ぎ、今後もその方向で対応する方針である。時代の流れもあり体制強化に努めて頂きたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一回救命講習を受け・毎年吸引器についての講義を受け緊急時の対応を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し運営推進委員会・近所の方々・地域ボランティアの方々の協力を得ながら年2回避難訓練を行っている。	夜間想定を含む避難訓練を地域の協力を得て実施している。防災責任者による消火警報設備(スプリンクラーを含む)の定期点検を年2回実施している。非常食(水)を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待にならないように注意して対応している。自分の思いのまま話せる環境を作っている。不安・希望は事務所へ話しに来る入居者がいる。	入居者一人ひとり人権を大切にケアに徹した対応をしている。居室への出入りに際し、声掛けし身に着けるものは自分で選んだものを着る等である。情報(書類)の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、思いや希望を話したときには、聴き漏らしのないように記録を行い、自己決定を優先できるようにしている。自己決定を優先すると佩用症候群の危険がある時には、数回の声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を知る為に面談を行い、生活の中で希望を叶えられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後、自分で着たい服を準備出来るように支援している。また、自分で選べない人には、スタッフと会話をしながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に通所介護・短期入所生活施設の栄養士が献立を作成し食材を準備している。調理・片付けを一緒に行っている。また毎月、食べたいものを皆で調理し【お腹一杯会食会】を行っている。	職員一名が交代で入居者と一緒に同じものを食べている。他の職員は食事介助(4人)に専念している。食前食後の嚥下体操、口腔ケアを徹底している。また、「お腹いっぱい会食会」は好評で、とてもユニークである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量・排泄・食事量の把握をチェックリストを毎日記録し体調管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食後の歯磨き・歌を歌い誤嚥防止をしている。週1回歯科医・歯科衛生士による嚥下体操・口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・水分チェック表を利用し、入居者の排泄パターンを把握している。声掛けを行い、トイレにて排泄が出来るように支援している。	トイレでの排泄、誘導を24時間体制で支援している。ただし夜間帯は安眠を妨げない配慮も忘れないよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副菜には、野菜を中心に調理している。また、朝食にはヨーグルトに果物を入れ食べている。家族の希望があれば定期的に購入し飲んでいる。(現在は、EGファイバーを飲んでいる)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行っているが、拒否の方に関しては、連日の声掛けを工夫し対応している。毎日希望の人があれば対応可能体制である。	入居者一人ひとりのサイクルを把握し、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。拒否しがちな方(婦人)には、汚れを洗う等その都度方策を考えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時、寝衣・ベットメイキングを行い、個々の生活パターンにて休む事が出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理表を作成し、内服経過・現在の内服内容・内服マニュアルにて注意事項などをいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特異性と持っている力が発揮できるように支援している。(ハーモニカの演奏・折り紙・草花の世話・散歩など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の花見・運動会などに参加している。また、地域のボランティアの方々によるイベントを充実させている。	入居者の重度化や機能低下等から外出が困難な状況になってきている面もあるが家族や地域住民(ボランティア)の協力を得ての支援を工夫し、取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生計を担ってきた方。ひとり暮らしだった方に関しては、自管理のお金を持っている。一定金額を事務所で預かり外出時持参する。支払いが出来る人には、自分の分の会計を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時には、スタッフが側に居て受け答える。施設の通信に手紙を同封する事によって、家族(孫)と文通が始まった方も居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・フロアに、季節の草花を飾り、フロアには、季節の折り紙の作品を飾っている。暖房の時期は、加湿器を設置している。	建物全体の造り、共同ホール、廊下も広くて明るく開放的である。毎年、2回(春、秋)「屋内運動会」を開催し、好評を得ている。また、広い敷地には畑があり野菜作りも楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過したり、フロアにてテレビ・CD・DVDなど思い思いの場所で過している。廊下には、肘掛のある大きな椅子を2脚設置し会話が弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使用してきたものを持参していたき自分だけの居室づくりを行っている。愛着のある物の中で安心して過せるようにしている。	居室の広さは基準を満たしており、個々の違いはあっても机や椅子、タンスや仏壇等使い慣れた物が持ち込まれている。本人、職員と共に居室の整理についてもう一工夫、努力して頂きたい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし出来る事は見守り・声掛けにて対応している。居室・トイレの場所には、表札・目印など分かりやすくしている。		